

各国の政局流動期

毎日新聞

2011年(平成23年)9月14日(水)

世界の鼓動

田中 均

イリス」に登場した北朝鮮の高官は、私自身の北朝鮮との交渉の雰囲気(きふく)を髣髴(ふふく)とさせ、私にとっても必見(めいけん)のドラマであった。

秋田を訪ねた翌日、日本と韓国の有識者の集まりである日韓フォーラムでソウルに出張した。韓国は明年4月の国政選挙、12月の大統領選に向けて既に国内政治の季節に入ったかのようだ。東アジアの国々は時を同じく政権交代期を迎える。中国では明年国家主席を含む指導者の交代が一斉にある。ロシアや米国では大統領選。北朝鮮の権力承継も山場を迎えるに違いない。はたして関係各国の選挙や指導者交代は北朝鮮問題にどう

朝鮮半島情勢は正念場へ

いった影響を与えるだろうか。

北朝鮮は、是々非々で時には対北朝鮮強硬策をとる韓国の李明博(イミボク)保守政権から金大中(キムジョンウ)、盧武鉉(ノムグヒョン)時代のような融和(ようわ)政策に傾きがちな民主党政権への政権交代を期待して政策を採るだろう。強硬な政策を採る韓国に譲歩するとは考えにくい。場合によっては、軍事的



画・onyx

挑発を含めて朝鮮半島の緊張を高め、豊かになった韓国民に「戦争は真っ平」と思わせる行動に出る、韓国国内政局を揺さぶろうとする可能性はある。

ただし、更なる挑発があれば、過去2回の軍事挑発に対し自制した韓国も今度は報復せざるを得ないだろう。このような衝突は南北

内で二国間協議を走らせる必要があると述べてきた。南北、米朝、日朝の二国間協議である。こういう協議がないことには六者協議に中身を与えられない。二国間協議は韓国の頭越(かぶ)しであってほならない。まず、南北が成果を上げることが、米朝や日朝協議を進める必須(ひつと)の条件だと考えてきた。

しかし、南北関係が大きな前進をみることにはなかった。今や北朝鮮が政権維持のため恐れるのは米国ではなく韓国であるということなのかもしれない。経済的に大きな発展を遂げた韓国との格差はあまりにも大きく、李政権の強硬策に対抗できる力は核しかない。そして、韓国の圧力に屈するわけにはいかない。であるなら、南北の進展が無くとも米国や日本は北朝鮮との二国間協議を進めるべきなのだろう。このためには、日米韓の強い連携の確保が必須だ。

いずれにせよ明年末までの16カ月間は朝鮮半島情勢の正念場となるだろう。場合によっては朝鮮半島の緊張に伴う危機管理計画を整備する必要も出てくる。日本では新しい政権が発足した。少なくとも、この地域の国内政治が流動化する今後16カ月間は、日本では安定的な政権運営で、能動的な外交ができる環境となることを切に願いたい。(たなか・ひとし 日本総研国際戦略研究所理事長)

※毎月第2水曜に掲載します